

9月17日(金)・18日(土)・19日(日)・20日(祝)

あが の さと  
**上野の里 交流会館 収穫祭**

問 上野の里ふれあい交流会館収穫祭企画部 ☎ 28-2757

新米にたよる



1日限定100セット  
 上野の里ふれあい市  
 光修窯 城之窯 天郷窯 守窯 作  
 「新米おにぎりとお野焼プレートセット」販売 (700円)

1日限定10食  
 茶房あがの  
 上野焼(庚申窯作)飯碗付  
 「新米定食」販売 (1350円)

特別価格で提供  
 上野焼陶芸館  
 上野焼協同組合窯元  
 「新米飯碗展」開催  
 新作飯碗特別販売

▼夏休みの間、静寂を保っていた学校も、9月の声を聞くと同時に、再び活気を帯びてくる。およそ1月半の時間の経過が、子ども達を少しだけ大人っぽくさせてはいるが、新たな成長に向けてさまざまなドラマが刻み込まれる空間に変わりはなく、最もエネルギーにあふれた場所と言えるだろう

▼大学もそうした意味では、学々に対する探求心を保障する拠点として、また知的マグマの宝庫として、その機能をいかに発揮するとともに、学生達の学究的好奇心を大いに喚起してほしいと願っている。学内の雰囲気によっては、学問的関心や活動に微妙な影響を与えることも考えられるので、できるだけ開放的で進取の精神に富んだ環境が望まれる。さらに、学生達の行動範囲もかつてに比べると飛躍的に広がっており、多角的かつ即物的な調査研究が可能になっていると思われることから、大学側の手厚い支援体制が絶対に必要であろう▼こんなことを改めて考えるようになったのは、先月益前に、慶應義塾大学経済学部3年生の学生6人が、わたしを訪ねてきたからである。彼らは、財政社会学を通して、地域振興と行政のあり方を学ぶ研究室に所属していて、財政再建団体の経験がある福智町に興味を持ち、今回の訪問になったそう。事前に質問内容等の提示もあり、それなりの準備をしていたが、一番うれしかったのは、当世の若者像とは異なり、実に謙虚で好ましい態度であったことである。気がつかないうちに、次代を担う力は着実に育っている。逆に、若い人から教えられた気がする。



浦田 弘二